なごや にんちしょう NEWS

H27.2 月号

発行：
名古屋市認知症相談支援センター
n-renkei@samba.ocn.ne.jp
☎052-763-1552

名古屋市
認知症コールセンター　☎052-763-1332
受付時間　月・水・木・金…10～16時
火…14～20時　（年末年始・祝日除く）

名古屋市認知症コールセンター実績報告

1日あたりの平均相談件数	H26年10・11月	H26年12月・H27年1月	昨年度同期（12・1月）
	5.0 件	**6.2 件**	4.5 件

地域での実践より…　「居場所」の力（ちから）

ペンケースやポシェットなどジョイントの革製品。名古屋市の若年性認知症本人・家族交流会のサポーターさんの愛用品です。
「居場所」での活動の結果、製品として形となり、購入したひとの身につけられるようになります。

― “本人や家族が社会とつながる場、参加する場”

あゆみの会（名古屋市の若年性認知症本人・家族交流会）では、月一回の交流会とは別に、保育園（プールの準備等）、高齢者施設（喫茶コーナー等）、市民マラソン（給水の補助等）でのボランティア活動に本人・家族とサポーターで取り組んでいます。

活動前には、**「できるかなぁ」**と不安気な表情だったＡさんも活動が始まるとすぐ不安な表情は消え、いきいきした顔に。以前は当たり前に取り組んでいた地域での活動。**「当たり前のことが当たり前にできる」**、このことがＡさんや家族に自信をもたらしました。あゆみの会の「仲間」の存在も大きかったと思われます。

― 「いまやれることをやろう」と、思える場所

昨年 11 月、**“本人や家族が社会とつながる場、参加する場”** をテーマに、若年性認知症講演会を開催し、あゆみの会の実践報告とともに、若年性認知症ひとたちの就労の場「ジョイント」（東京都世田谷区）の比留間ちづ子所長（作業療法士）に講演を行ってもらいました。

このジョイントでは、**「中核症状へのケア」**が重視されています。中核症状へのケアを重視するのは不便を補い、不安を解消するためだけではありません。**「工夫すればできること」**を見出し、より積極的で創造的な活動を実現するためでもあります（写真：ジョイントの革製品）。

「中核症状へのケア」とは、例えば…
- ○ 記憶障害（もの忘れ）に対し**“記憶の補助具”**を。（例：**メモや写真**）
- ○ 実行機能障害（段取りが出来なくなる）に対し **“行動をつなぐことば”**を。（例：**「さっきは〇〇だったよ」「次は〇〇をするって決めていたよ」**）
- ○ 時間や場所の見当識障害（時間や場所がわからなくなる）に対し、卓上カレンダーやアラーム、場所を記した張り紙を。（例：**ハサミは白い棚**）

進行すればいずれできなくなることかもしれないのに…なぜ、できるように支援するのか？できなくなることに繰り返し直面するのはつらいのではないか…　――比留間所長曰く、キーワードは**「居場所」**でした。

- ○ たとえ進行してある動作（工程）ができなくなっても、**「こっちの方法でやってみようか」**と、方向転換の支援をしてもらえる場所
- ○ 同じ病のある「仲間」や気持ちを理解する「伴走者」がいる場所
- ○ **「いまやれることをやろう」**―という意欲が芽生える場所

ジョイントが行っているのは、発症後の過程で「居場所」を喪失したひとの**「新たな居場所をつくる」**こと。それが中心にあるようでした。

― 「活動」「参加」「役割」・・・　「想い」を取り戻す「居場所」の力

「居場所」――あたり前に日常を過ごしている場所――それが実は「支え」になっていることを、普段わたしたちは意識をすることは少ないかもしれません。

若年性認知症に関する取組みは、老若男女・病気のあるなしを問わない大切なことを教えてくれているようにも思いました。